

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902488		
法人名	(有)ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	旭川市神楽4条1丁目2-4		
自己評価作成日	平成29年8月23日	評価結果市町村受理日	平成29年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0172902488-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が楽しく生活できるよう『ハビネスプラン』と題して一人一人に合わせた余暇活動を提供したり、ホーム内の家事やおやつ作り、野菜作りや畑の草取り、工作などを職員と一緒にい入居者様の活躍の場を多く作っています。ひだまり広場では毎朝、系列グループホームと合同で屋外ラジオ体操を行っており、地域の方も参加されています。ラジオ体操後は町内を散歩しながら、他グループホームの入居者様や職員、地域の方と交流をしています。誕生会やひだまり祭りにはご家族にも参加頂き、一緒に楽しいひとときを過ごして頂いています。日々の様子や出来事を書いた一行日記と写真を載せた通信、受診記録や健康管理表などホームでの生活全般を毎月ご家族にお送りし、安心して頂いています。今月末にホームページ開設予定です。職員の健康管理の為、福利厚生でマッサージ代を補助してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内中心部にほど近く交通の利便性と閑静な住宅街の環境に恵まれた中に開設13年目を迎える木造(準耐火構造)平屋建て1ユニット(定員:9名)のグループホームです。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら菜園で収穫したトマトやキュウリなどの野菜で漬物を職員と一緒に作り食したり、戸外でラジオ体操の開催や動物園、ふるさと人形展に出かけて楽しみごとや気分転換等の支援をしている。家族等が意見や要望等を言い表せるように一人ひとりの一日の特徴のあるご本人の言葉や行動等を「一日一行日記」にまとめたり、毎月通信を発行して情報提供すると共に来訪時や事業所主催の夏祭りの開催時等に家族等からの意見や要望等を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成27年10月に理念を『メイクハピネス』に変更し、入居者一人一人が楽しく生き活きと生活できる場を提供するため、職員全員で話し合い入居者の『ハピネスプラン』を決めて取り組んでいる。	事業所独自の理念を見直し継続的改善に取り組み、その実現の為に全体会議やミーティングで話し合い共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	『ひだまり祭り』に地域の方を招待したり、町内会総会・新年会への出席や今年度5月から始めた屋外でのラジオ体操に地域の方も参加して下さっています。また、体操後散歩をすることで地域の方との会話・交流の機会が増えた。	地元の中学校生徒の体験学習や福祉ボランティアの受け入れ、地域の人々や家族等が多数参加する「ひだまり祭り」の開催、町内会の総会や新年会への出席などを通じて地元の人々との交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生徒の福祉ボランティア体験学習を受け入れたり、入居者と地域の方が一緒に屋外でラジオ体操をすることで、職員が入居者とどう関わっているかも見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者への取り組みなどの報告を行い、家族の思いや取り組みについての地域の方や、有識者からの意見など参考にしてサービス向上に繋げている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や利用状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員も出席しているので、取り組みや考え方など伝えながら行政としての意見も参考にしている。また、福祉部への相談などもその都度行っている	市担当者とは、市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じて指導や助言を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会に参加し、ミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアを心掛けている。入居者が自由に動く中で危険がないよう見守り介助に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯のため夜間には行っているが、日中は施錠していない。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止の内部・外部研修会参加、日々の業務やカンファレンスを通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での勉強会を通じ、職員一人一人の意識とチームワークで虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を活用している方、活用を考えている方は居ないが、今後のために研修会への参加やミーティングで学ぶ場を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、理解して頂いている。後日分からないことがあった場合は、その都度説明対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とマンツーマンでの対応時にゆっくり話しを聞いたり、家族とは電話や面会時にお訊きした意見や要望を職員で協議し運営に反映させている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付箱を設置して言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、第三者機関等の苦情申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個人面談の他に毎月のミーティングで話す機会があり、出た意見・要望は管理者会議等で反映できるよう話しあっている。	個別面談の実施や全体会議、ユニット会議等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の評価シートを基に面談し、給与・賞与に反映させている。職員親睦のため年2回交流会を行っている。外出レク時の食事補助、また健康管理の為、福利厚生でマッサージ代の補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後はマンツーマンで基本的な研修(OJT)を行い、力量に合わせOJTの期間を決めている。各自研修が受けやすいよう勤務調整も行っている。外部の他に内部勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や資格取得のための受講時に同業者との交流があったり、ケア研究会の行事に参加し、情報交換など行い、サービスの質向上に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や関係者に事前に情報を伺い、職員間で情報を共有している。本人がこれまでの生活を継続し、安心して過ごせるよう、話しやすい雰囲気を作り、不安や思いを傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人家族より不安や要望を伺い、ホームとして出来ること、出来ないことを伝えつつ出来る限り要望に近づけられるよう努めている。面会時には普段の本人の様子など伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族の現状の問題など聴き取りした上で支援内容を確認し、入居後は本人の生活状況を観察し、再度必要な支援は何なのか話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般可能な範囲で入居者・職員一緒に行っています。また、日曜大工やお菓子作りでは入居者の経験をお訊きしながら一緒に考え工夫しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会やひだまり祭りに参加して頂いたり、来訪時には日常の様子や必要な物を伝えるなど、職員も家族と会話をするようにしています。また、家族との外出などをケアプランに入れることもあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺や畑など希望があれば一緒に行き、ご近所の方と話しをされたり、家族の協力を得てお墓参りに行くなどして頂いています。親戚や友達がホームに遊びに来ることもあります。	菜園での野菜作りや収穫、散歩や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性など考慮しながら食事やレクリエーションの席、ソファの座る場所など気配りしている。また、職員が間に入ることで会話やコミュニケーションが増えたり、また、トラブルにならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、今後の方向性を確認し、必要な時には他のサービスに繋げるよう取り組んでいる。その後も家族から相談を受けたら支援していく。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向を直接本人に伺ったり、会話や行動の中から本人の思いを推し量り対応している。散歩など職員数の都合上すぐに対応出来ない時は本人に何時になったら行くことなど説明し納得して頂いている。	家族からの情報や日常会話などから一人ひとりの暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有して本人本位に検討している。	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・他サービス等から情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入居者の表情・精神・体調・排泄状態などを申し送りや介護記録などでスタッフ間情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向、ミーティング・モニタリングを通じて職員間で話し合い介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意向、医師及び看護師からの指導や助言、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に本人の言動・いつもと違う様子など記載し、職員間で共有し日常の介護方法や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列グループホーム全体での屋外ラジオ体操、散歩やボランティアによるパチンコなど本人・家族の意向やニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との会話や庭・桜を見せて頂いたり、行事に参加して頂いている。また、研修の場として地域の中学生を受入れ交流をしています。地域のパチンコ屋がボランティアでパチンコ台を持ってきて楽しませてくださっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院を選んで頂き、内科医の訪問診療は月1～2回、不定期の歯科訪問、24時間の医療連携体制を構築し、体調変化時の相談など行っている。希望により病院受診している方もいる。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師勤務時に一人一人の状態を報告し健康管理・相談を行っている。受診時や特変時には事前にかかりつけ病院の看護師に状態を報告し適切な受診や対応が出来るように指示を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は家族や病院関係者に連絡し、状態を聞きながら出来るだけ早期に退院できるよう情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	一部の入居者は病院・家族・ホームの管理者同席で緊急時や終末期の対応について話し合いが出来ており、職員間でも共有出来ている。話し合いが出来ていない入居者についても今後状況を見ながら医師・家族と話し合いを行って行きたい。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、すぐ見られる場所に起き対応出来るようにしている。その都度ミーティング等でも対応方法の再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、年2回の避難訓練を実施している。緊急連絡網の整備、運営推進委員や町内会にも協力を呼びかけている。今後は水害などの避難訓練も検討する。	消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を実施し、地域の協力が得られるように努めている。また、緊急時や急変時に備えて定期的に訓練を実施している。	自然災害(地震、水害等)に備えて避難計画を検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、言葉使いや態度に十分気をつけ、穏やかに過ごして頂けるよう配慮している。接遇の勉強会も行っている。	接遇や不適切なケアの内部研修会開催等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや体操、散歩、入浴など本人の思いや希望を尊重し考慮しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床や就寝、食事時間や日常の過ごし方など一人一人のペースに合わせ、体調も考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、希望に添ってカットをして頂いたり、洋服も自分で選んでもらっている。洗面台には車イスの方にも見える位置に鏡を置き、自分で髪をとかせるようヘアブラシを置いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや茶碗拭きをして頂いたり、たこ焼きやドーナツなど一緒におやつを手作りしみんなで食べています。お誕生ケーキを元ケーキ職人の入居者につくって頂く事もあります。	菜園で収穫した野菜で漬物作りをして食事を楽しんだり、一人ひとりの好みや力を活かしておやつ作りや食後の後片付け等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示のもと摂取量を調整したり、気温、体調に合わせて水分量を調整している。受診時医師に摂取量を報告し、相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし行っている。入居者に合わせ、舌ブラシを使用したり、口腔洗浄剤でうがいをして頂くなど一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間毎に声かけ、誘導を行っている。下衣の上げ下げ、パット装着など出来ることは行って頂き、出来ない部分を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳・オリゴ糖入りヨーグルト、ラジオ体操などで便秘予防に努めている。ヨーグルトを食べるようになり、下剤使用量が減っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	一人週2回、曜日は決めているが、体調や外出、又拒否などある場合は入浴日を変更し対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、本人の意向を尊重して週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状況に応じて休息をして頂いている。夜間は安眠できるよう室温や衣類の調整、また日中の活動量を増やしたり、穏やかに過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作り、常に確認が出来るようになっている。個人ファイルでも薬表を確認出来る。薬の変更があった場合は日誌に記載し、申し送りでも情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好きな事を見だし無理のないようお手伝いや趣味、レクなど張り合いを持って過ごせる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は屋外でのラジオ体操、近所への散歩や花見、パチンコ、買い物など個々の希望で外出したり、レクリエーションとして月1回は外出、外食など全員で出掛けている。	戸外でラジオ体操の開催やふるさと人形展に出かけて楽しみごとや気分転換等の支援をしている。また、一人ひとりのその日の希望に沿って、動物園や花見など普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預らせて頂き、外出時や買い物の際はご自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話や手紙のやりとりの援助をしている。ただし、相手方の状況も考慮しながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日の光や大きな音、室温や風などに配慮し、居心地良く過ごせる様、また季節の壁飾りを入居者と一緒に作り、飾ることで季節感を味わって頂いている。入居者が鳥の餌台を作成したことで庭に来る小鳥を見ながら過ごされている方もいる。	共用空間は、清潔感が漂い季節毎の飾りつけが掲示されるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファや食席、パブリックなど本人の好きなように自由にくつろげるよう声かけや工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や仏壇を置いたり、家族や行事の写真を飾るなど寂しさや不安を感じないよう工夫している。好きな音楽を聴いたり、好きな本を呼んで過ごされる方もいる。	居室には、使い慣れた家具や小物、仏壇等が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内に手すり、居室に表札、トイレには大きな字で『トイレ』の文字を掛け分かりやすくするなど自分で移動出来るようにしている。食事の盛りつけ、洗濯たため、庭の草取りなど安全に考慮しながら自立を目指せるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家作成日: 平成 29 年 9 月 13 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	火災に関しては年2回避難訓練を行っているが、洪水時の避難訓練は実施していない。避難場所までの避難経路や入居者の誘導、避難時の心得などあまり分かっていない。	洪水時の避難確保計画を作成し、避難訓練を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所、避難経路、避難場所までの時間を確認する。 ・避難時、入居者誘導の注意点をまとめる ・避難時の持ち物を検討 	3～4ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。